

## D-2 大谷の海で遊ぼう

### 「大谷の海で遊ぼう」実践例

#### (1) わらい

- ・地域の海での活動を企画・立案、実施することにより、地域の特色を生かした学校づくりをする。
- ・地域の海での活動を通して生徒相互の心の交流を図り、より好ましい人間関係を深める。

[B生徒会活動]

#### (2) 指導経過

##### ①第1回執行委員会

前期の活動内容について話し合う。月1回の生徒集会開催。GWの取り組み。「大谷の海で遊ぼう」など、新たな学校作りをめざす取り組みのアイデアが出る。

##### ②前期生徒総会

前期の生徒会の活動について話し合い。承認される。月1回の生徒集会開催。GWの取り組み。「大谷の海で遊ぼう」についても承認される。

##### ③第1回代議委員会

「大谷の海で遊ぼう」原案について承認される。いかだ作りの材料として牛乳パックの収集を開始する。途中で2Lペットボトルの収集も始める。

##### ④実行委員会

3年生を中心として、「海岸清掃ボランティア」「いかだ製作」「さざえ調理」の3つのグループで具体的な計画を立てる。

##### ⑤ 第2回代議委員会

「大谷の海で遊ぼう」具体案について討議し、承認する。

##### ⑥各実行委員会の活動

夏休み、3年生を中心として上記3つのグループで準備をする。

##### ⑦「大谷の海で遊ぼう」

#### (3) 指導法の工夫

- ・前期立ち会い演説会での演説内容を考える視点として、どんな学校をつくるために、どのようなことをしようと思うのか具体的に考えるように指示した。
- ・学校作りの視点として、自分たちが楽しめるものをしようとして指導した。
- ・3年生を中心としながらも生徒総会や代議委員会を生かし、全校生徒を巻き込むよう計画した。いかだはそのためのシンボリックな意味合いがある。

#### (4) 評価と個に応じた支援・指導の工夫

##### 評価例 ⑥各実行委員会の活動

目標 係ごとの具体的な計画を立てることができる。

評価規準 活動の場面を想定し、必要な事物を考えながら計画を立てている。

(技能・表現)

## 生徒の様子

「大谷の海で遊ぼう」実施にあたっての計画案を3年生で考えた。3つのグループに分かれて各係が具体的計画を立てた。内容・方法・必要物・係など当日を想定して詳しく決めているグループもあれば、内容だけを決めて次のことを考えられないグループもあった。

「いかだ製作」のグループは、いかだの設計図を作った段階で次のことを考えられなかった。

### 支援① 何が必要なのか問う

集めているペットボトル以外に必要な物がないか問いかけた。木材や釘など必要であることに気づいた。材料は、合板は購入しその他の物は学校にある物を使うということになった。いかだ作りをしたことがないので、イメージが湧かないことも原因の一つであるかもしれない。

### 支援② いつ、どのような手順で作るのかを問う

さらに、いつ、どのように、誰が作るのかも問いかけた。夏休みということもあり、時間はたくさんある。少ない人数でもでもなんとかできるという思いがあるようだ。楽しみにしていることなので、楽しみながら作りたいという思いもある。しかし、時間などなんらかの制約が必要であると思う。限られた中でどう取り組んでいけばよいかということを考えることが大切であると思う。

## (5) 成果と課題

### 成果

- ・地域のよさを改めて知ることができる体験であった。
- ・いかだ作りのグループは大ざっぱな計画だったが、製作に入ると材料集め、製作と意欲的に取り組み、当初の2倍の大きさのいかだを作ることができた。
- ・準備のために夏休みに登校したが、帰り際に「充実した日やった」という言葉を出すなど充実感を味わうことができた。
- ・いかだのこぎ手を考える際に、男子が女子のことを考慮するなど、お互いのことを考える姿が見られた。
- ・新しい生徒会行事に取り組むことで、学校は自分たちがつくるのだという自覚をもたせることができた。
- ・よりよい学校づくりをめざそうという3年生を中心とした取り組みを全校に伝えることにより、1・2年生も含めて「学校づくり」という意識をもたせることができた。
- ・自主的に取り組むことにより、責任を感じ、役割を果たす大切さを感じることができた。

### 課題

- ・1学期生徒が一番楽しみにしていた行事である。しかし、海沿いの学校であるにもかかわらず、いかだを作ったことがなく、サザエを採った経験のある生徒も極めて少なかったため、かなり支援をすることになった。生徒の実態把握が不十分であり、見通しが甘かった。



4人乗っても楽に浮くいかだができました。